



まちの魅力を活かした観光の振興

● 現状と課題 ●

当町へは、令和元年に約240万人の観光客が訪れていますが、宿泊客は年々減少傾向にあります。近年の旅行動態として、物見遊山的な団体旅行が減少し、友だちや家族といった小グループや、一人旅といった個人旅行が増加しており、その観光ニーズも多様化・個別化してきています。また、一人の情報発信が多くの人を呼ぶというような、SNSの活用が観光の集客面に大きな影響を与えています。これらのことから、SNSを活用した集客をしつつ、ニーズに応えられる観光コンテンツを増やすことや、当町の特長的な資源である鈴鹿国定公園等の多種多様な動植物など生物多様性や自然本来がもたらす憩い、癒しを観光客に提供するための農業体験、産業体験、自然環境学習、スポーツイベント等と他産業との連携をさせた着地型観光の創出が求められています。

少子高齢化が進展している中、観光のまちとして持続的に発展するには、菰野町を観光で訪れた人がそれをきっかけにその後も地域の人々と関わるような関係人口を増加させることが必要であり、そのためには自然を活かした景観整備や商品開発とともに、住民も一体となってまちの魅力を情報発信するなど、まちぐるみで「おもてなしの心」を持つことが不可欠です。あわせて、観光客を増やすだけでなく、実質的な経済的効果を生み出す地域内での経済循環のしくみを構築することが大切であり、当町の魅力は農村景観や特産物など町全体として発揮されるものであることから、観光事業者と農業者などの他産業の事業者との連携、協働による特産品開発や食の観光が進められています。

湯の山かもしか大橋の開通、新名神高速道路菰野インターチェンジの供用開始など、当町の交通インフラは整備され、宿泊拠点である湯の山温泉街へのアクセスは向上しました。しかしながら、湯の山温泉街周辺では、四季折々の景観や川のせせらぎが楽しめますが、観光情報が取得できる場所や休憩できる施設が少ないなど、来訪者があまり温泉街を回遊せず、滞在時間が長くないことから、にぎわいを創出できていないのが現状です。

当町では、地域の魅力ある観光資源を広域的にネットワーク化する広域観光を推進してきたこともあり、外国人を中心に旅行者が増加していましたが、令和2年に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人、日本人を問わず大きく減少に転じ、観光業は、大きな影響を受けました。当面の間は、比較的近隣からの集客に重点を置いた取り組みを行い、そのような旅行者を中心に広域観光を進め、観光業の回復を図ることが求められます。また、新型コロナウイルス感染症収束後も見据えて今後の観光振興のあり方を併せて検討していく必要があります。

開湯1300年の歴史ある湯の山温泉を魅力あるものにするために、自然、健康、スポーツを通じた観光振興とともに、渋滞対策や防災対策、空き店舗開業支援などにより観光客に安全かつ快適な時間と場所を提供できる環境整備が求められます。そして、自然豊かな環境を有する当町においては、更なる滞在時間の長期化を目指し、そのことを強みにした滞在型観光推進の検討も必要です。

これらのことを踏まえ行政は、一般社団法人菰野町観光協会を中心として、宿泊事業者、観光事業者、交通事業者などと協働してより魅力的な観光地域づくりを実現することが求められています。



● 目指す方向 ●

- ① 地域資源の活用による魅力の創造を図り、魅力を発信します
- ② 交通対策、景観等の基盤整備を進めます
- ③ おもてなしの向上を図ります
- ④ 広域観光を推進します

● 関連する個別計画 ●

- ・ 茗野町観光振興プラン（①～④）
- ・ 茅野町空家等対策計画（①②）

● それぞれの役割 ●

町民・地域の役割	行政の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・町内の観光地を訪れ、地域の資源を再発見、再認識する ・まちの魅力をSNSなどで発信する ・地域の観光情報に興味、関心を持つ ・観光客に対するおもてなしの心を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力、特色について多様な情報媒体を活用し情報発信を行う ・観光資源の発掘、周遊ルートの検討、農林業体験等体験メニューの創造を関連団体と連携して行う ・町民が地域の魅力を発信、応援できるための環境づくりを行う ・近隣市町と連携し、広域観光メニューの創出に努める